



合奏を披露する約150人の出演者

美しい音色で観客魅了

養父市吹奏楽祭に6団体が出演

1月16日、市内の吹奏楽グループ6団体に参加した養父市吹奏楽祭が八鹿文化会館ホールで行われました。

これは、市内の吹奏楽を愛好する小学生から社会人のみなさんが集い、世代を越えて同じ楽譜と楽器で演奏を楽しみ、さらに日頃の活動成果を発表することを目的に行われたものです。会場には約300の方が訪れ、6団体150人の出演者が奏でる美しい音色を楽しみました。

出演6団体それぞれが演奏した後、出演者全員で5曲の合奏を披露。昨年末に亡くなられた佐々木憲二前市長への鎮魂曲として、テレビドラマの主題歌「アメージング グレイス」も演奏されました。

燃えさかるたいまつで鬼面姿に木鉦を持つ鬼をたたき、その年の無病息災を祈願する「まいそう祭り」(市指定文化財)が、1月14日の夜、大屋町宮本の御井神社で奉納されました。

大昔、この辺りが泥海だったころ、神様の船3艘のうち、2艘の行方が分からなくなりました。1艘は建屋の船谷で見つかったが、もう1艘が見つからず、見つからなかった1艘を「マライソーナイ」(もう1艘ない)と夜を徹して探した呼び声が起源とされています。

祭りは、本殿での神事の後、神主の御神火から点火したたいまつを持ち、氏子らが境内に炎の円陣を組みます。拝殿から木鉦と木箱を持った鬼が飛び出し、円陣の内側を回り始めると、氏子らは「マライソーナイ」とはやし立て、たいまつを振りかざして木箱に激しくたたきつけました。境内には、鬼をたたきたびに舞い上がる火の粉が飛び交い、壮絶な雰囲気になっていました。

鬼追い出し、無病息災祈る 大屋町宮本で「まいそう祭り」奉納



鬼の持つ木箱をたいまつでたたき氏子ら



チューブソリで迫力ある滑走を楽しむ参加者

にぎわう白銀のゲレンデ

2005氷ノ山国際スノーフェスティバル

昨年末から営業を始めている市営氷ノ山国際スキー場への誘客を図るため、2005氷ノ山国際スノーフェスティバルが1月15日と16日の2日間にわたって同スキー場で行われました。

正月前からの順調な降雪で1・5㍎の積雪の中、約1、600人が白銀のゲレンデを満喫しました。15日に行われたフェスティバル恒例のチューブソリ大会には49人がエントリー。全長約150㍎の特設コースに挑んだ参加者は、ゴムチューブにしがみつき迫力ある滑走を楽しみました。同日午後からは、先着400人の方に但馬牛の焼肉が無料で振る舞われました。

翌16日には、ジャイアントスラローム大会や景品つき餅まき大会が行われ、ゲレンデがにぎわう2日間となりました。